

デンソー山岳部 07 年夏山合宿 A パーティ報告書(8/11-14)

メンバー

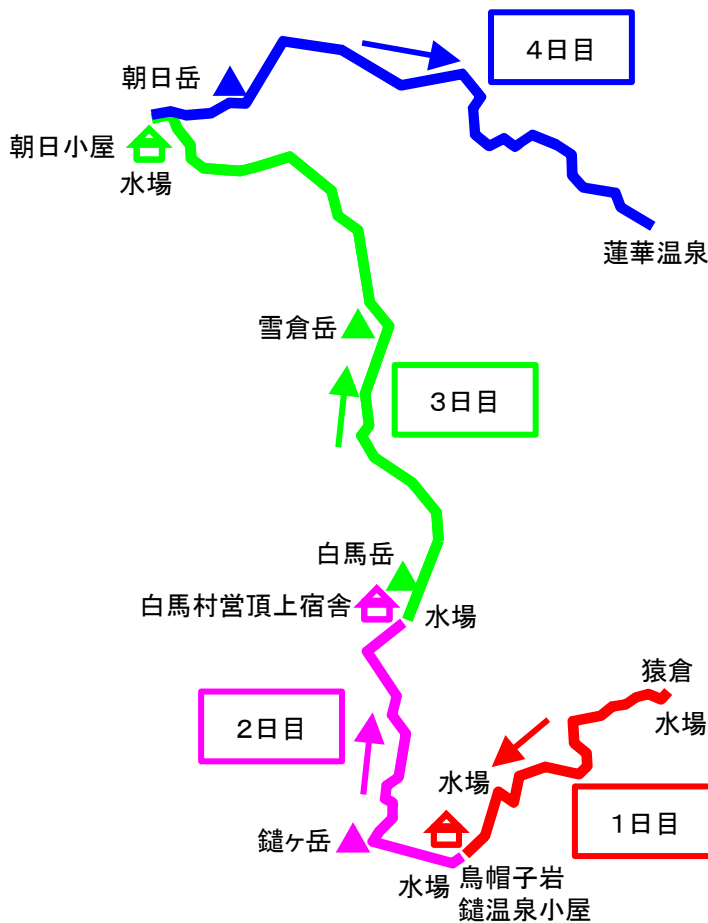
山田明(CL)、吉川浩行(SL、装備)、
長島博美(食糧)、芦田直之(記録)、
竹内幹雄(気象)、金子清(渉外)、
岸上薫(会計)、町田修、渡辺勝利、
亀山誠、金城陽、藤田英昭、吉田
明和



山域

白馬岳～雪倉岳～朝日岳

概念図



8月11日 晴れ

6:15 猿倉荘発

7:10-20 休憩(1本目)

8:00-15 休憩(2本目)

9:10-9:20 休憩(3本目)

ガーデンの湯で仮眠し 4:30 に起床、残り数台の猿倉の駐車場にかろうじて駆け込む。始発の満員バスで到着した人々とほぼ同時に猿倉荘を出発。大雪溪へ向かう群集をしり目に、人気のない樹林帯の急登を行う。無風の中でしだいに汗ばんでゆく。途中振り返り雪の残る山並みに見とれていると、「上はもっと良いぞ」とせかされる。数パーティとすれ違うも、だれにも追いつかれることはない。4本目休憩した杓子沢では、雪溪からの冷気で汗が瞬時に引く。さらに50分ほど行くと、雪解け水がごうごうと流れる鑓沢に着く(写真)。疲労した体にむち打ち再び登り始めると、ほどなく硫黄のにおいがし、湯の流れが目に入り、幕営地に着く。先客はまばらであり、寝床を確保しそびれる懸念はき憂に終わった。絶景の露天風呂で汗を流した後、冷えたビールを買って乾杯。



8月12日 晴れ

5:15 鑓温泉発

6:00-10 休憩(1本目)-水場

7:05-7:20 休憩(2本目)

8:15-25 コル

9:00-9:30 鑓ヶ岳

5時の出発の予定だったが、荷造りが遅れ15分遅れで出発。すでに明るい鑓温泉を後に急登を行う。途中、鎖場もあり、ちょっとした岩登りの雰囲気



味わう。がけの上に1頭のカモ



シカが現れる(写真)。この辺り(大出原)はチングルマやクロユリの群生、池とうがある。天狗の

頭をバックに写真撮影(冒頭の写真)。緑、雪の白、岩の茶のコントラストが青空に映える。ここからは八ヶ岳連峰や富士山まで見渡せる(写真)。出発から3ピッチで、コルに出る。ここからさらに30分ばかり行くと、鑓ヶ岳の360°大パノラマにたどり着く。雲ひとつない空の下、立山連峰や槍ヶ岳が見渡せる。杓子岳への道筋がはっきり見える。ここからはやや風が強くなり、滑りやすい砂利道になっているところがあるため、慎重に歩を進める。多くのパーティとすれ違う。杓子岳の横まで着き、杓子岳に行くべきかどうか思案する。意



外に皆余力があり、全員杓子岳までの空身での砂利道のピストンを楽しむ(写真)。白馬村営山頂宿舎のしょうしゃな建物が現れるころには、大雪渓を登ってくる人々がアリの行列のように見える。途中コマクサの群生が見られる。12:45、幕営地に着くと、そこはすでに多数の先客でにぎわっている。持参した缶ビールを雪渓で冷やし、乾杯。日は照り続け、炎天下語り合った。

8月13日 晴れ

3:50 白馬村営山頂宿舎発

4:20-5:00 白馬岳

6:05-6:15 休憩

6:55-7:10 雪倉避難小屋

7:50-8:15 雪倉岳

9:30-9:45 休憩(泉)

10:05-10:25 休憩(水)

11:25-40 休憩(枯れ沢)

12:15-12:40 休憩(沢の水)

12:55 朝日小屋着



予定より10分早く出発。真っ暗な尾根をゆっくりと30分ほど登ると、白馬岳山頂に着く。ここにおいて白馬三山を制覇したことになる。早く着きすぎてしまい、40分ほど写真撮影などしながら時間をつぶす。雲海から浮かび上がる太陽を拝む。日に照らされる山並み(写真)を眺めながら、人影のまばらな尾根を緩やかに下ってゆく。雪倉避難小屋に着くころには、日差しが

強くなり暑くなっている。この小屋はあまり居心地がよさそうではない。雪倉岳に向けて40分ほど一気に登る。雪倉岳では、日本海が見渡せる。黒く立派な新しい道標がある。ここからはしばらく長い下りだ。ところどころざれており、歩きづらい。すれ違う人の険しい遠路を思い、冗談交じりに次は彼らのように登ろうと言う者がいる。水を求めて、ちよろちよろとわく泉で足を止める。この水は意外にうまい。さらに20分ほど林の中を行くと、とうとうと水の流れる滝がある。ここからは、うだるような暑さとの戦いだ。枯れ沢で一本。渡辺勝さんのレモンがおいしい。目指す赤い三角屋根が見えるも、しゃく熱の太陽の中、小さな昇降は続く。35分ほど行ったところに再度大きな沢がある。そこでの休憩に異議を唱える者はない。みな、頭に水をかけ、「生き返った」と口々に言う。ここからは、朝日岳を巻く白馬水平道を行き、わずか15分で小屋に着いた。昨日と違って、小屋での日差しはガスによってさえぎられた。小屋で買った飲み物を片手に語らった。

8月14日 晴れ

3:45 朝日小屋発

4:40-5:10 朝日岳

6:05-6:20 沢

7:20-7:30 五輪高原の休憩所

8:30-8:50 白高地沢

10:05-10:20 瀬戸川過ぎ

11:20-11:30 野鳥の森

11:50 蓮華温泉ロッジ着



きょうも予定の4時より早く出発。気温は20度ほどもあり、これが普通だと新人に誤解されては困る。1時間ほど登り続け、朝日岳山頂で、遠くの山の裏から昇ってくる太陽を拝む(写真)。ここは蚊が大量発生しており、何人かが蚊と格闘する。ここからの五輪尾根は

湿原地帯を主に木道伝いに降りてゆくコースだ。ところどころぬかるみでスパッツが重宝する。途中、雷鳥の群れ(5,6羽)に出会う。日影の沢で一息つき、なだかな木道の階段を降りていくと、いつの間にか、周りに山を見上げる状態だ。容赦ない日差しの中、眺めの良い休憩所で汗をぬぐう。だんだん水のごう音が聞こえてきて、白高地沢に出る。しゃく熱の太陽の中、鉄のつり橋を一人一人渡っていく。再び樹林帯に入り、1時間ほど上り下りを繰り返すが、なかなか休むのに適当な場所がない。瀬戸川鉄橋に着くも、水ははるか下、無残に期待は裏切られる。5分ほど行ってやむなく枯れ沢で休む。ここから20分ほど緩い登りが続き、疲れが増す。突如、兵馬ノ平と呼ばれる美しい湿原が現れる。うぐいすの音が響き、透明度の高い小川が流れており、そのせせらぎにいやされる。ゴールまであと20分の野鳥の森という場所で、最後の一息をつく。蓮華温泉のキャンプ場が現れて、車道を600mほど行くと、蓮華温泉ロッジに着く。ここで、メンバーは互いに堅く握手を交わした。

所見

- <計画> 今回の夏合宿は、例年と比べると参加メンバーが多く、新人も多かったため、余裕を持った日程で計画した。事前準備として、メンバー全員が個人山行やトレーニングによる体力強化を実践しており、特に、新人の装備の準備、山行での体力強化を計画的に実践し、トラブルもなく、予定通り行動できたのは良かった。(山田明)
- <行動> 全日程好天に恵まれたため、計画通り行動できた。新人の体力も十分あり、ペースを落とすことなく、順調に行動できた。テント設営や朝の出発準備についても、当初、新人は要領を得ていなかったが、合宿後半では時間内に準備できるようになっていたため良かった。また、最終日は新人に先頭を歩いてもらい、ルート取り、ペース配分について訓練できたので、新人育成の成果を得られたといえる。(山田明)
- <食糧> サラミ+ワインは今後の定番となるだろう。冷えた飲み物が小屋で手に入る場合、コンデンスミルク等甘い飲み物は不要。ニガウリとマーボー春雨の丼は、なかなかの逸品。ただし、ニガウリは余ると処理が困難。海草サラダは、野菜が不足しがちな山の生活に便利。レトルトの丼物に米ではなく韓国めんをかけたものが好評を博したが、めんは煮すぎるともちのようになってしまう。コーヒーゼリーは固まらず配給を断念。(芦田直之)

感想

- 夏合宿に参加する前は4泊5日の長い山行を最後までやり遂げる事が出来るか、とても不安がありました。登山が始まると途中体力的にとってもきつい箇所や危険な場所があった

のですが、登山の途中で、日常生活では見る事が出来ない自然の草木や広大な山々の景色を見ると普段のストレスを発散し、爽快な気分になさしてくれました。さらに、途中の水場で、山水を飲んだ時は日常の水道水では味わえないくらいとてもおいしかったです。また、白馬岳・朝日岳のご来光を見た時はとても感動しました。今回の夏合宿では山岳部の先輩達が、参加者一人一人の体調に合わせたペースで登山をして頂いたので、無事に安全な山行を達成する事が出来ました。ありがとうございました。(藤田英昭)

- 一日目の釜温泉は、景色が良く、昼と夜の2回入りました。でも、熱くて全身浸かることができず、足だけ入れて、後は、お湯をかぶっていました。二日目は、釜温泉から登り始めて、ようやく釜ヶ岳付近の稜線にでて、景色がよかったので、とても感動しました。三日目は、日中猛暑で、距離も長かったのでとても苦しい一日でした。四日目は、途中で雷鳥の親子などが見れてよかったです。しかし、最後あたりの、上りが続いたところで、体力を消耗してしまい、ゴールの蓮華温泉に着いた頃には、歩くのもやっとなぐらい疲れていました。でも、ゴールしたときには、達成感があり、合宿に参加して良かったなと思いました。(金城陽)
- 今回の夏山合宿は私にとって、初めてのテント泊登山であったので、とても楽しみであった。初日、ザックへの詰め方が悪かったのか、ザックがとても重く感じ、支えるのがつらいまま釜温泉に到着した。2日目、釜温泉を出発し、稜線に出たときの絶景には感動した。特に、白馬岳を目の当たりにしたときの感動は今でも覚えている。3日目、出発する前、竹内さんにザックの詰め方を指導して頂き、楽に歩けるようになった。そして、朝日岳を目指して出発。日差しが強く、気温は30℃近くになり暑さで体力を奪われるが、要所の川で休憩をし、水をかぶったり飲んだりしながら、体力を保った。4日目、朝日岳からゴールの蓮華温泉に向かって出発。ゴール直前に、登り階段が延々と続き苦しさもあったがそれを乗り越えて、蓮華温泉が姿を現したとき、自然と足早になった。温泉に到着したときは、達成感と充実感から何とも言えないうれしさが込上げてきた。(吉田明和)

会計報告

支出		収入	
高速	36,700	会費	13,900×12
ガソリン	35,100		11,500×1
車両償却	9,700		
食糧	32,275		
テニ場	19,500		
風呂	10,400		
バス・電車	15,760		
タクシー	18,820		
合計	178,300	合計	178,300

デンソー山岳部 07年夏山合宿Bパーティ報告書

2007/08/11-08/14

南アルプス(荒川岳・赤石岳)



オオガサモチと赤石岳

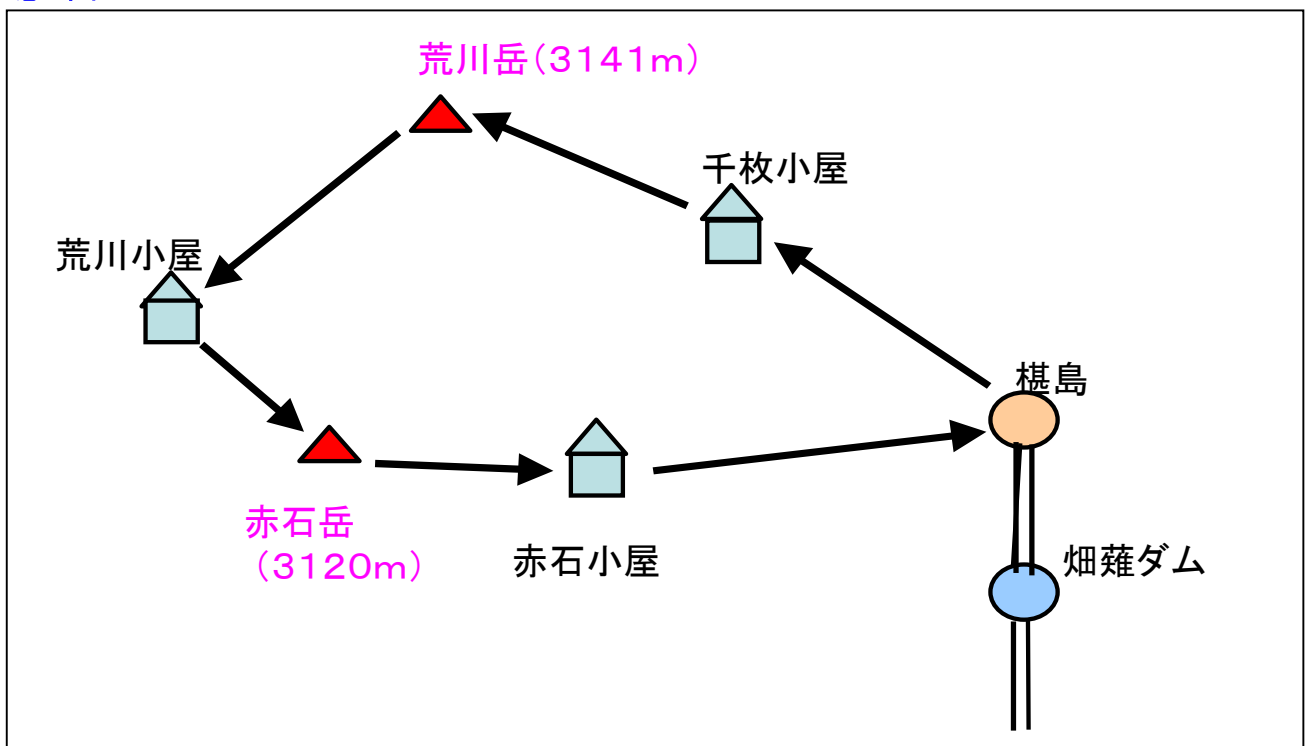
メンバー(計6名)

伊藤 隆文(CL) 塚本 英吾(SL) 三矢 十三世(気象) 油井 武(会計) 佐溝 直彦(渉外) 津田 廣一(装備・記録)

目的と山域

キリマンジャロ登山に向けての体力強化&高地トレーニング、親睦
南アルプス 荒川岳～赤石岳

概念図



8月10日(金) 快晴

19:15	刈谷発 (先発組は昼頃発)	22:30	東名 静岡IC
20:30	浜名湖SA (食事)	25:20	畑薙ダム手前臨時駐車場着 就寝

8月11日(土) 快晴

5:30	起床	10:25	小石下手前林道に出て一本(10分)
6:25	臨時駐車場 発	11:35	林道に出て一本(1700m付近)(10分)
6:50	畑薙第1ダム(バス停) 着	12:15	清水平(水場)で一本(15分)
7:25	臨時バス 発	13:30	2100m付近で一本(10分)
8:20	榎島登山口(林道) 着	14:45	駒鳥池を過ぎた所(2460m付近)で一本(10分)
8:30	登山口 出発	15:35	千枚小屋 着
9:20	1400m付近で一本(10分)		

☆☆ ログ ☆☆

盆休み渋滞の影響もさほど受けず、先発組を追いかける。日が変わり1時頃、臨時駐車場に到着。テントの外にいる人を発見。佐溝さんだ！無事合流でき感謝！感謝！ さっそくテントの中にもぐり込み爆睡。

5時半、起床。テントを撤収し、朝飯タイム。油井さん持参の新鮮野菜に舌鼓(うまい〜)。8時発の一番バスに乗る為、大急ぎで、6:25に出発。臨時の二番バス(7:25)に乗り込んだ。ウツラウツラしつつ、『赤石だ！』の歓声に目が覚める。8:20に榎島登山口(林道)に降りしてもらった。

身支度をし、塚本さんの『トップやるぞ〜』の一言で、8:30に歩き始める。滝見橋を過ぎ、つり橋を渡り、急な登りが続くが、皆、元気だ。樹林帯の中の木陰が助かる。1時間弱、歩いた所で最初の一本(水がうまい)。

さらに登りが続くが、快晴の天気の後押しされてか、快調だ。鉄塔横を通過し、旧道通行止で、迂回道に入り林道に出た所で一本(行動食のバナナに食らいつく)。岩頭の見晴らしを過ぎ、岩尾根を注意しながら急登する内に小石下を通過(千枚迄4.5時間の標識)。油井さんが狂歌を作り始めた。『はくしょんがクショクショと二つ出て誉められもせず山登り』 そうこうしている内に荒川岳が顔を出し、林道に出て一本。いわかがみの群生(三矢さん、はしゃぎだす)を過ぎ、急登している内に清水平に到着、一本。『冷たさが又一段とうまい水千枚岳の嶮しさ癒す』

急登、大しらびその森を過ぎ、見晴らし台(2100m付近)で一本。『指をさし見えた見えた赤い点明日の泊りの荒川小屋か』更にしらびその森の中、登り続ける。赤石岳・荒川岳の眺めが最高だ。快晴に感謝！(メンバー全員の日頃の行いがいいのか?)傾斜が緩やかになって駒鳥池を過ぎた所(2460m付近)で、今日最後の一本。

今日の最後の頑張り急登を、ものともせず登る。途中で出会った登山者から、『小屋付近はお花畑がきれいですよ、頑張って！』と、励まされる。小屋に近付くにつれ、高山植物の花畑が広がり、皆の目を楽しませてくれた(三矢さんが写真を撮りまくる)。ようやく、小屋が近くに見え、無事に15:35に千枚小屋到着。宿泊手続きを済ませ、富士を見ながら乾杯！



(感想)

キリマンジャロ登山を念頭においての小屋泊まりトレーニング山行の為、荷は軽く(8kg程度)、好天気に恵まれ快適に登る事が出来ました。メンバー中では、若手になる私が“バテたら困るな”と、内心思っていました。杞憂に終わりホットしています。諸先輩方の色々な山の楽しみ方に身近に接する事ができ、参考になりました。(津田 記)

8月12日(日) 快晴

5:00	起床	9:45	下りきって小休止
6:00	千枚小屋 出発	10:30	中岳避難小屋 一本(15分)
6:55	千枚岳 山頂(2,879.8m) 写真のみ	10:50	中岳 山頂(3,083.2m) 写真のみ
7:05	丸山(悪沢ノ頭) 山頂(3,032m) 一本(10分)	11:05	前岳 山頂(3,068m) 一本(10分)
7:15	丸山 山頂 発	11:15	前岳 山頂 発
8:50	悪沢岳 山頂(3,141m) 一本(25分)	12:05	傾斜が緩くなった所で一本(10分)
9:15	悪沢岳 発	12:45	荒川小屋着

☆☆ ログ ☆☆

5:00起床、小屋で朝食を済ませ、6:00に出発。今日も、昨日に引続き快晴である。この天気の中、荒川のピークに立てると思うとワクワクしてくる。急登が続き、ゆっくり、ゆっくり、一歩ずつ登る。一面のお花畑が目、鶯が耳を、楽しませてくれる。『喘ぎゆく旅人達に鶯の声しばして疲れ癒され』二軒小屋への分岐も過ぎ(6:30)、喘ぎ喘ぎしている内に千枚岳山頂に着いた(初ピーク)。握手をし、記念写真だけを撮り、丸山へ出発。早々に丸山について一本。『塩見岳千丈岳に手が届くはるかに望む北に甲斐駒』いよいよ悪沢岳へ向かう。岩場のヤセ尾根を慎重に越し(7:25)、眺望を楽しみつつ(赤石、富士山、槍穂高等)、歩を進める内に悪沢岳山頂(3141m)に到着。握手を交わし、一本(風速6~8m、15°C)。ゆっくりと360度の眺望を楽しむ。『乗鞍に御岳山もよく見えてはるかにかすむ加賀の白山』下りは、ザレた急坂で慎重にならざるを得ない。浮石を蹴らない様に、スリップしない様に、一歩一歩、足を置いて下る。汗びしょりになり、悪戦苦闘の30分。コルに着いて小休止。ホツとする。ここから中岳まではアップダウンも少なく、天界を散歩する様な感じ。お花畑を眺め、周りの山々を眺め、そうこうしている内に中岳避難小屋へ着き、一本(小屋の弁当の稲荷すしを食べる~おいしい~)。中岳山頂は写真だけを撮り、今日の最後のピークの前岳へ向かう。コルにザックをデポし、空身で前岳へ。11:05に前岳山頂に到着。登ってきた方と反対側は崩壊が著しい。毎年、削られて崩れている感じだ。何年かしたら、この景色はどうなっているのだろうか?持ってきた水を回し飲みし、記念写真を撮る。『お土産に持ち帰りたいこの冷氣荒川岳の折紙つけて』これからは、小屋まで下るだけ。景色を眺めながらゆっくり行く事にした。お花畑を愛で、カメラを持っている人は、立ち止まっては、シャッターを切っている。私は、花の名前が一向に覚えられず、せつかくの眺めが残念でならない。お花畑の中にある水場にて、最後の一本を取り、荒川小屋へ12:45に到着。勿論、乾杯!(南アルプスへ入山して2杯目です)



快晴の丸山へ



ハクサンイチゲ群落(前岳)



荒川小屋が見えて来た

(感想)

今日も最高でした。

好天に恵まれ、360度の眺望とお花畑に感謝。

悪沢岳の急斜面の登り/下りが、今日のハイライト。特に下りは慎重になりました。2日続けての好天、明日も天気にな~れ!

到着後のビールもうまかったし~(津田 記)

8月13日(月) 曇り後晴(午後からは快晴)

4:30	起床	8:45	赤石岳 発
5:30	荒川小屋出発	9:05	(カールの雪渓で遊ぶ)
6:00	大聖寺平(小休止) (5分)	9:30	分岐 発 (15分)
7:30	小赤石岳 山頂(3,081m)一本(雷鳥親子)(15分)	9:55	(暑くなって上着を脱ぐ)
7:45	小赤石岳 発	10:30	急坂を降りて(水場) 一本 (15分)
8:00	分岐(ザックデポ)	11:20	富士見平 一本 (20分)
8:20	赤石岳 山頂(3,120.1m) (霧が晴れる) (25分)	12:10	赤石小屋着

☆☆ ログ ☆☆

4:30起床、ウムム。今日の天気は雨？昨日も満点の星空、崩れる兆候なしだったのに…。朝食を済ませ、出発準備をしている間に小雨は止んだものの、霧で真っ白。山頂では霧が晴れることを祈りつつ5:30出発。霧のため、先が見えない。大聖寺平迄は緩やかだと思っていたが、意外にも急である。寒いせいか？全く汗をかかない。まずい！靴紐が緩んでる。歩行をストップしてもらい、靴紐を結び直す。森林限界を過ぎると猛烈に寒くなってくる。大聖寺平で小休止するや否や、シャツとヤッケを取出して大急ぎで着込み、再度、靴紐を結び直して、小赤石へ向かう。途中、7時頃か？突然に右手方向で虹と共に、ブロッケンが現れた。立ち止まってしばし見とれる。自分が輪環の中にいる。手を振るとその陰が輪環の中に！次の瞬間、消えた。歩き出すと、雷鳥が道案内するかの様に稜線近くに。カメラへ収めようとそっと近付くが、樹々の中に消えてしまった。ようやく小赤石に到着、一本(小屋の弁当を食べ、元気モリモリ)。ここでも雷鳥の親子(親1、雛3)を見つけ。分岐(8:00)でザックをデポし、空身で赤石へ。赤石岳山頂到着(8:20)と同時に霧が晴れた ウソツ(奇跡)！万歳。握手を交わし喜びあう。空の半分は快晴、他の半分は霧かすみの不思議な眺めを楽しんだ。分岐への途中でカールの雪渓へ降り雪中行軍を楽しみ、分岐へ戻る。出発準備の間に弁当の残りをおいしく頂いた。分岐を出発(9:30)し、小屋を目指し急坂を降りる。天候回復と共に暑くなり上着を脱いで、お花畑の中の水場迄一気にかけて下りて一本。『口つけて飲むは最後の岩清水疲れ癒して味も満点』富士見平まで、赤石をふり返りつつゆっくり下りて一本。『ふりかえり振り返り見る赤石の名残の雪に別れを惜しむ』赤石小屋へ12:10に到着し、聖をバックに新鮮ごうやで豪勢に乾杯！『こくこくと変わる姿や赤石の頂の雲あの娘に似たり』



瞬間のブロッケン

(感想)

今日は波乱万丈、面白い一日でした。赤石岳に着くまでは、霧が廻りを支配して景色は見えず。登頂と同時に霧が晴れるなんて！初めての経験です。又、ブロッケンが見えたり、雷鳥…と自然界の不思議をまざまざと見せてもらった様に思います。これだから、山登りは、やめられませんね！（津田 記）



赤石岳ありがとう

付録(油井さんの狂歌)

赤石の恥じらいもなくどんと晴れ聖はまだよべールの中ね
だけかんば曲がり曲がりて立上り朽ち木支えし昔しのぼる
山の端に沈む夕日に溶け行くは兎の三角聖の四角



聖をバックにリラックス

デンソー山岳部
07年夏山合宿Bパーティー

8月14日(火) 快晴

4:30	起床	7:40	林道を過ぎて一本 (10分)
5:25	赤石小屋出発	8:30	榎島ロッジ着
6:30	道幅の広い所で一本 (10分)		

☆☆ ログ ☆☆

昨日の夜は、油井先輩を講師に、満点の星空を楽しむ鑑賞会を開き、合宿最後の夜を楽しんだ。

4:30 起床、朝食を済ませ、出発準備。何故か？もっと山中にいたい気持ちがあるが、仕方がない。少しでも早いバスに乗りたくて、5:25 に小屋を出発。今日の塚本さんは、どんどん飛ばす。昨日までより、ペースがはやいぞ～。下るだけなので、全員、少しぐらい早いペースでも問題なくついていく。全員、口も軽く冗談を言いながらも、ワイワイガヤガヤと続く。3日間の山行で体力がついた？本日も快晴で、富士山が遠くかなたに姿を見せる。下る道すがら、我々を見送ってくれているのか？隠れては、時々頭を出してくれる。油井さんは、相変わらず狂歌作りにご執心だ。

『名残富士探しつ歩く根っこ道足をとられて歩み進まず』『もうすぐと言われて歩く根っこ道さわら島まではるかに三里』と、連発だ。1時間程歩き、道幅の広い所で一本(2100m付近?)。

一息入れたら、『さ～いぞ～』と出発。『人形の衣着たよな富士の山しらびそ森の樹々のまにまに』

林道を横切り(7:15)、林道跡のヘアピンも過ぎ(7:25)、やや広い所で一本(1600m?付近)。

しばらくして、はじごを渡り(7:55)、沢の音もかすかに聞こえ出した(8:05)。もうすぐだ！バス道に出て(8:23)、榎島へ到着(8:30)。浅間神社へ無事下山のお礼参り。

ロッジのシャワーで汗を流し、二番バスより30分程早い臨時バス(9:30)で

榎島を後にした。赤石温泉で、気持ちよく体を休め、井川産のしいたけの甘み煮と屋ご飯(山女うどん)を、おいしく頂いた。全員、大満足の山行であった。

(感想)

全日程を通して、好天に恵まれ、南アルプスの良さを十二分に味わう事ができた。反省点として、3日目の赤石登頂の日に靴紐が緩んでしまった事について、もう一度、基本に戻って研究する必要があると思う。諸先輩方の山登りの楽しみ方を、直に見る事ができ、今後の山行でまねてみようと思う。この素晴らしい山行をプレゼントしてくれた全メンバーと山の神に感謝です。

〔蛇足です、自宅へ戻り・・・『この暑さ山からおりてひしひしと体にこたえる夏のバテかな』〕(津田 記)



朝の聖 (次は聖だ～)

【リーダー所見】

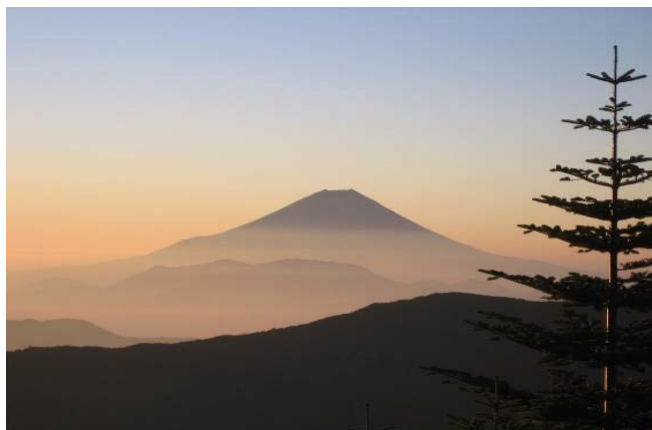
今回の合宿は、久しぶりの合宿で、体力的にだいじょうか不安でしたが、トップのピッチがとても良く、何とか4日間全員元気に無事に歩きとおせました。天気も良く、満点の星空も見えて、最高の合宿でした。私としては、この南の南部は、大学の一年のクラブ以来、約30年ぶりで、大変懐かしい気持ちで歩きました。先輩にしごかれながら、15日間かけて、南の全山縦走をやったときのことを思い出しながら歩いてました。あれから、年をとったもんだと。

この山城は、とても奥深い山城なので、なかなかこの時期でも人が少なく、2週間前の富士山の人の洪水とは対照的に、とても山を満喫できる山旅でした。山小屋も混んでおらず、とても快適な山行になりました。夜の満天の星空鑑賞会では、人工衛星も始めて見ました。

今回の山行は、天気にも恵まれたこともあり、かつてない印象深い山行でした。

またいつか、今度は聖を目指して行ってみたいと思います。(伊藤 記)

<写真アルバム>



会計報告

デンソー電友会山岳部夏山(Bパーティー)南アルプス隊会計報告書

2007. 8. 15 会計担当油井 武

収入の部					支出の部					
No	費目	単価	数	金額	No	費目	単価	金額	備考	
1	入山时会費	30,000	6	180,000	1	東海フォレスト運賃往復	3,000	6	18,000	
2	下山時補正(塚本)	1670	1	1670	2	千枚小屋一泊2食11日	8,000	6	48,000	
3	同上 (三矢)	670	1	670	3	バス代割引	3,000	6	-18,000	
4	同上 (津田)	2670	1	2670	4	弁当代(伊藤、塚本津田、佐溝、油井)	1,000	5	5,000	
5	同上 (伊藤)	2670	1	2670	5	12日荒川小屋1泊2食	8,000	6	48,000	
6	同上 (佐溝)	3670	1	3670	6	弁当代(伊藤、津田、佐溝、油井)	1,000	4	4,000	
7	同上 (油井)	3670	1	3670	7	13日赤石小屋1泊2食	8,000	6	48,000	
					8	弁当代(佐溝、油井)	1,000	2	2,000	
					9	トイレ使用代	100	6	600	
					10	さわら島ロッジシャワー	500	6	3,000	
					11	伊藤車ガソリン	140	53.3	7,470	▲
					12	同上メンテ他	2,400	1	2,400	
					13	同上高速料金	3,700	2	7,400	
					14	佐溝車ガソリン	150	68.8	10,350	
					15	同上メンテ他	2,400	1	2,400	▼
					16	同上高速料金	3,200	2	6,400	
	合計			195,020	合計			195,020		

注 1人あたり交通費分担金6070円 = $36420 \text{円} (\text{項目No}11 \sim 16) \div 6$

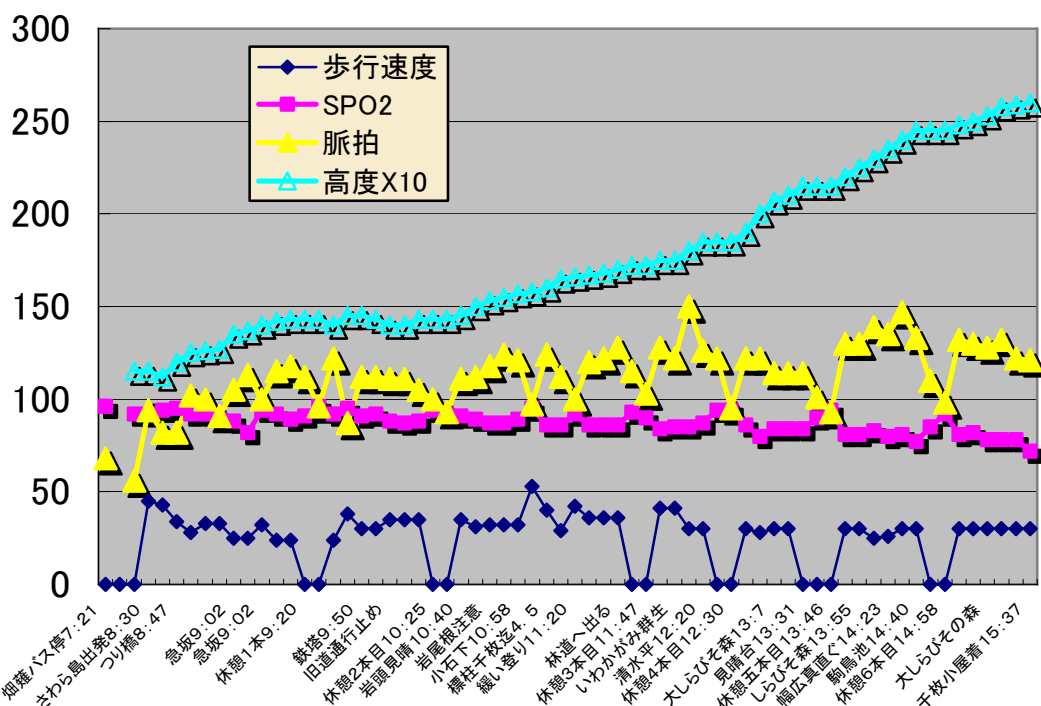
2、下山時補正分担金 = $6070 \text{円} - (30000 - \text{各自の宿泊費と弁当代})$

7,470
2,400
7,400
10,350
2,400
6,400
36,420

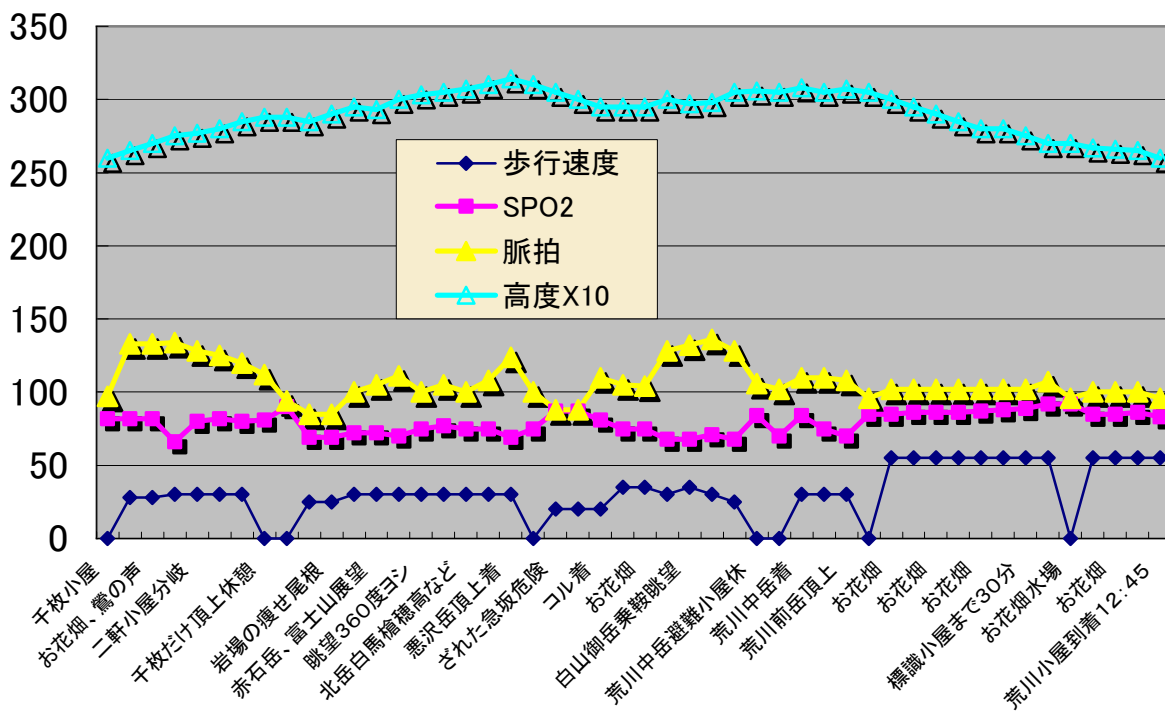
以上

【参考：'07年夏合宿登山生理学的記録；油井先輩提供】

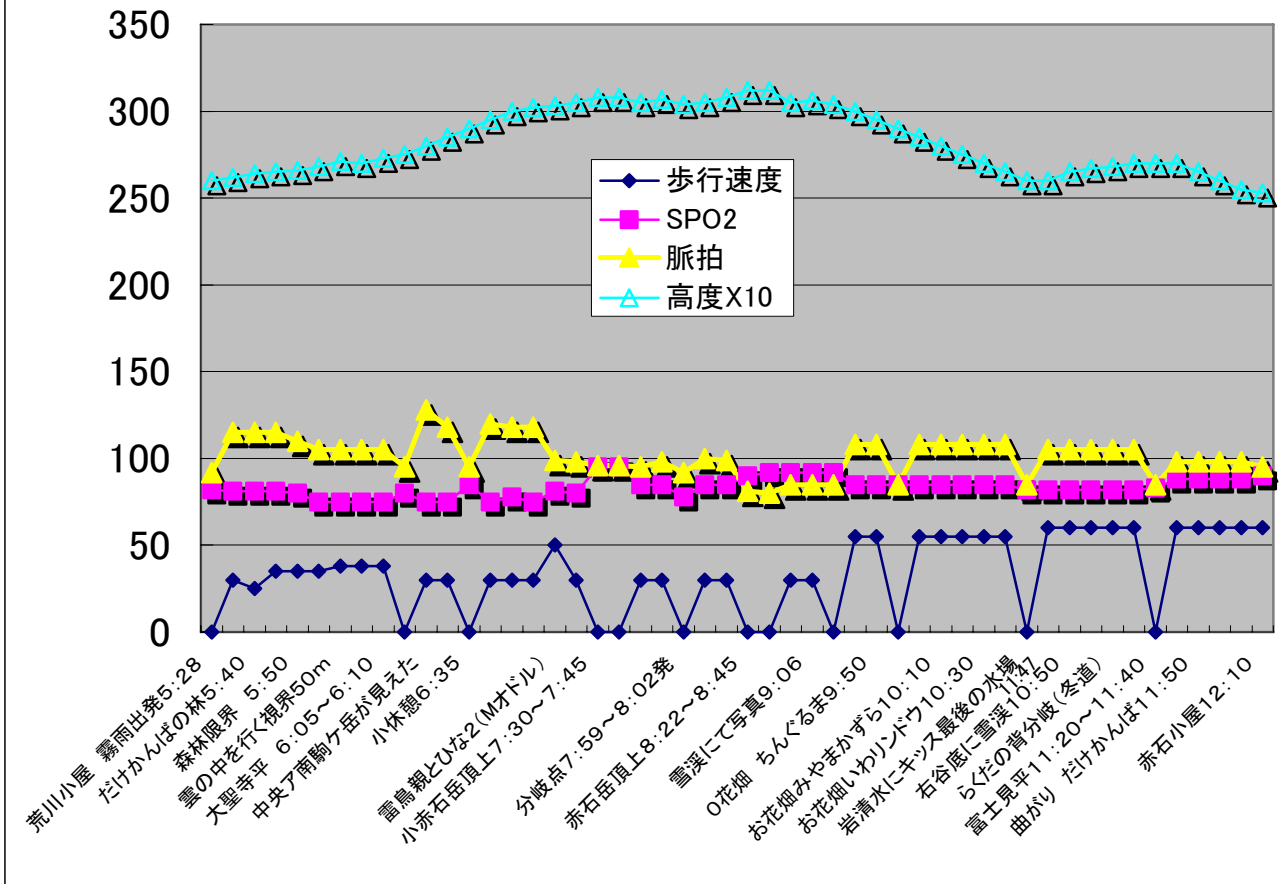
'07/8南ア夏山合宿における歩行速度・SPO2・脈拍・高度の関係
(第1日8月11日晴れ気温:°C17~12度)



'07/8南ア夏山合宿における歩行速度・SPO2・脈拍・標高の
関係(第2日8月12日快晴15°C風速3~6~8m)



'07/8南ア夏山合宿における歩行速度・SPO2・脈拍・標高の 関係(第3日8月13日霧後晴れ)



'07/8南ア夏山合宿における歩行速度・SPO2・脈拍・標高 の関係(第4日8月14日晴れ)

